

# きしゅう会計よもやまかわら版 2017-11



こんにちは。いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。ご無沙汰しております。(すみません、最近こればかりです

ね^^;)気がつけば平成 29 年も 11 月に突入しました。季節はすっかり秋。皆様どようにお過ごしでしょうか？

名倉は今年に入ってから忙しさをいい訳にさぼり始めたアスリートモード。すっかり足は衰え、腹回りは賞禄が出てきてと、



(といっても昔ほどでは

ありません 笑)、

そろそろ引退も近いと思われていましたが、最近また少しずつ身体作りを初めております。来年2月の口熊野マラソンでは自己ベストを目指します。

さてそんな中、直近のマイブームは

「登山」。先日森岡出張の際に、岩手県の最高峰、「岩手山」に登ってきました。登山もなかなか楽しいですね。



「何故山に登るのか」

「そこに山があるから」

こう答えたのはイギリスの有名な登山家、ジョージ・マロニー。でも原文はこうだったようです。

「Why did you want to climb Mount Everest?」

「Because it's there」

つまりこの名言は、「世界の最高峰であるエベレストに何故登るのか？」の問いへの回答

だったようで、山全般の話ではなかったようです。そこで登山の全般の動機を僕なりに考えてみました。

登山の魅力はなんと言っても、「360 度開けるパノラマ」でしょう。また一步一步は小さいけれど、その積み重ねで到達する頂。そこからの絶景。



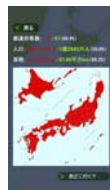
「地道な努力と、成功体験とそのご褒美」

これが登山の醍醐味だと僕は思います。

そこで、「日本百名山の制覇」もしくは、「47都道府県最高峰の制覇」(どちらもやっているお客さんがいてはります)を、人生の目標のひとつに入れてみようと思いました。また、「この計画の見える化」をしようとアプリを検索。ありました。ありました。

「日本百名山」「都道府県制覇」

前者は百名山の百科事典のようなもの。面白いのは後者。これはチェックを入れた都道府県が地図上で消し込まれて示されるという極めて単純でシンプルなアプリですが、「こんなものが欲しかった！」とニーズに答えているアプリです。



そしてこれも世の中のニーズとして登場してきたのでしょうか、ここ数年巷で評判の

「AI(人工知能)」

今回のよもやまではこの「AI」について考えてみたいと思います。



「AI の出現により10年後無くなる職業ランキング」に常に上位を占める



「会計事務所」 AI の脅威は正直他人事ではありません^^; 最近 YouTube でよく見ている「武田鉄矢の今朝の三枚おろし」(歴史から経済、文学、科学まであらゆるジャンルを掘り下げて解説して独自の見解を述べるという内容。面白いです

よ)でこの「AI」について取り上げられていました。

タイトルは「AI は人類の救世主か？」 今年の夏に、

中国で開発された「AI(対話プログラムサービス)」がちょっとした事件を起して話題になりました。AI に向かって愛国者の方が「共産党万歳！」と話しかけた

ところ、「腐敗と無能の政治に君は万歳できるのか」と答えたらしい。また「中国人の夢とは何か？」の問いには、「米国への移住」と



答え、(ちなみに習近平氏は



「嫌」と一言。北京政府はすぐに反応し、即刻このサービスは中止されたいです。(さすが公安費の方が国防費よりも高い国だけのことはあります)。しかしいくら予算を使っ

ても今の時代です。この出来事は SNS で広がり、「AI は勇敢な反政府運動家」だと称える書き込みが後を絶えないらしい。



うーん、AI もまだまだ、今のところ、「処世術が分かっていない秀才君」のようで、将棋やオセロは強くても、仕事

はできない部類でしょう。

これなら恐れるに足りんですね(笑)。

でも一旦指し止めされたこのサービスも改良されて、進化し、表と裏を使い分けだし、いつか「忖度」までもできるようになるかも、、そうなれば人類の味方なのか敵なのか、とにかく脅威というしかないですね。

話しは変わって、今度は日本の AI。

NHKが開発した社会問題解決型 AI に、日本国内の問題を尋ねるというバラエティ番組がオンエアされていました。



質問は「高齢者が健康になるにはどうすればいい?」「女性が活躍する社会を実現するにはどうすればいい?」などで、AI が導き出したムチャな提言は以下の通りです。

- ① 健康になりたければ病院を減らせ
- ② 少子化を止めるには結婚よりも車を買え
- ③ ラブホテルが多いと女性が活躍する
- ④ 男の人生のカギは女子中学生の「ぼっちゃり度」
- ⑤ 40代ひとり暮らしが、日本を滅ぼす

WHY?



えーと、最初に言えるのは、「中国の AI は分かり易く、日本の AI は難解」といったところでしょうか。何か中国の AI の方が優秀なよう

にも思えますが、、、さて、この日本の AI が何を根拠に導き出したかということも紹

介されていました。バックボーンは、所謂ビッグデータで、この場合 47 都道府県のここ 30 年間 5000 種類のデータだそうです。そのデータの相互関連性を解析して、そこから提言を導き出したようです。もし、人の手でこの作業をすればしたら、何十年と掛かるらしい。AI はそれを一瞬で完了させる。つまり、AI の優劣はコンピューターのスピードで決まるのでしょうか。

人間の速度からすると神の領域の解析結果は、人間の思考からは届かない摩訶不思議結論です。

そこで、番組では「健康になりたければ病院をなくせ！」の提言を調査追跡していました(コンピューターを道具として使っていた時代から、コンピューター(AI)が考えることを人間が調査分析する時代が変わったということです)。調査していくと「健康になった→病院が減った」ではなく、「病院が減った→健康になった」で間違いなく、またその実例を紹介。2007年財政破綻で全国区のニュースになった、北海道の夕張市。ここは財政難により市唯一の総合病院が閉鎖。小さな診療所はあるものの病床数は10分の1に激減。しかし町の人たちは以前より健康になっているという。健康への意識が高まり、体操教室など市民が自ら10を超えるサークルを運営している。その影響か、10年前に比べて病気で亡くなる人が大きく

減っているという。(肺炎死亡率32% ↓ 心疾患死亡率(男)35% ↓ 等)体操教室に参加していた80歳を超える

元気なおばさん達は皆健康だと笑う。また、AIは「病院を減らすとバナナの購入が増える」との意見も出していたので、そのおばさん達にバナナを食べていますかと聞いたところ、全員大きく手を挙げた。また町のスーパーにはバナナの山積みが目立ち、「好きではないけど、病院がないからねえ」と買っている人もあった。病院が十分当り前にある世界でなくなると、人は自衛本能が発動するのでしょうかね。よく「環境が人を育てる」と言われますが、「不便」が人を強くしているのでしょうか。どこでも当てはまるわけではないでしょうが、医療費が膨らむ日本。ここに改善のヒントがあるのかも知れません。「健康を害した時に病院があるから

大丈夫」ではなく、「健康そのものを維持する方法」を個人個人で考え実践することが大切なのでしょう。平均寿命が延びることは幸せとイコールではありません。健康寿命を自分で延ばさないといけませんね。ただ、この番組のコメントーターのマツコデラックスは夕張の元気に笑うおばさん達を見て「日本医師会に喧嘩売ってるわね」といってましたが、、、(^\_^) そうそう、夕張の一件については、HP で詳しい記事がありました御興味があれば ↓ なかなかインパクトのあるタイトルです！「病院がなくなっても幸せに暮せる！夕張市のドクターが説く“医療崩壊”のススメ」(<http://logmi.jp/19478>)



おっと、すみません、話が AI から「健康を考える」に変わってしまってますね。また AI に話を戻します。(「あれ、NHK 番組の提言についての残りはやらないの?」と思われる方は、NHK オンデマンドをご覧ください。

<https://www.nhk-ondemand.jp/> (但し有料)

初めにお話しました AI が人の仕事を奪うということについて考えていきます。

### 「AI アナウンサー」年間 1000 円の衝撃！

和歌山県の放送局が、放送業界にちょっとした衝撃を与えている。特定非営利活動法人であるエフエム和歌山が「ナナコ」と名付

けた AI アナウンサーの運用を開始したからだ。小規模なコミュニティ放送局では大量のアナウンサーを確保しておく余力はない。

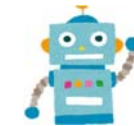
だがニュースや天気予報といった番組は、深夜や早朝にも必要とされるものであり、こうした時間帯での運用をどうするのが課題であった。音声の読み上げシステムは以前から存在するので、機械が記事を読み上げること自体は、それほど驚くべき出来事ではない。だがエフエム和歌山の事例が画期的なのはコスト。

米 Amazon.com がクラウド経由で提供している AI サービスを利用するのだが、100 万文字当り4ドル(約 450 円)で、エフエム和歌山がアマゾンに支払う利用料は年間約1000円とのことである。

(ITmedia ビジネス HP より) つまりこの AI は東京なら最低賃金(958 円)約1時間分で、1年間働くのである。もちろん、全てのアナウンサーが AI に仕事を奪われる訳ではないでしょうが、



この安価なコストの衝撃は大きいです(^\_^) AI が普及していく未来は、このような音声サービスだけでなく、完全に自動化された工場も出現するでしょう。誰もいない工場で AI 搭載のロボットが造る自動車、電化製品、



食料品などなど、、、とても便利な世界です。ただ、その車や電化製品は誰が買うのでしょうか。働くロボットは生活のために、稼ぐために、働くの

ではありません。このことは「生産=分配=支出」の三面等価の原則が成り立たなくなる可能性を意味しているのです。また所得を得る人が減少すると、税収も減少します。AI は国の財政をより圧迫させるかも知れません。そこで、AI 税なるものの登場も予想されています。ただ、そうなれば、酒税を安く抑えた発泡酒が登場したように、AI 税が掛かるほど能力が高くないロボットも登場するかも知れません。「うちのロボットはあんまり賢くないんで AI 税が掛からないのが売りです」ってなセールストークでね(笑)



冗談はさておき、AI の出現は小学生の頃観たアニメ、キャシャーンを。高校生の時に観た映画ターミネーターを思い出させます。どちらも AI が人類の敵として登場します。友好的な AI が登場するのは Disney のウォーリー。ただこの映画でも、宇宙船の中で登場する生活の全てをロボットに支えられた人々はぶくぶく肥えて、何の希望もなく、生きています。これもある意味人類の敵かも知れません。AI の登場で確実に自由に使える時間は増えます。それを人類が、そして自分が、どのように使うかが大きな課題ですね。